

国府叢書 卷五十

(表紙貼紙) 「国府叢書 下卷五十」

(表紙貼紙) 「書目

東村神官

広河家旧記

同家関係神社

之記事多し

「原本同家蔵」

4

明治三十一年三月

舊記寫

本書 富田村大字喜田村字拝志住

神官廣川家秘蔵

ノ書ヲ借り以テ謄寫ス 加藤

5

覚

一 拜志村、下之新宮氏神、纏遲大明神、神殿、拜殿、

鉤殿有之候、

一 社鋪横式拾間、縦三拾間有之、則、御赦免地ニ而御座候、

一 古来者ハ(ママ)、社領地三町六反御座候所、浅野彈正殿、戸

田民部殿、當国御改之砌リ、不残被召上候

一 神木杉檜有之候、

一 同村北境、朱沙賀大明神社有之、氏子上神宮

村徳久村、且、得諸事入合ニテ御座候、古国分村

は、鳥越境迄、拜志町は會所ト申所迄、氏子

6

ニテ有之候、神木御座候、

一 同村鎮守大明神、神殿、拜殿有之、神木松榎

御座候、

一 松山御領分、宮ヶ崎村氏神、八幡宮、神殿、拜殿、

鉤殿有之候、
右ハ神職代々、私、神主等相勤来申候
貞享二丑八月 日 拜志町下之神宮（抹消） 〔□〕
廣川伊勢太夫

覚

一 今日御用之儀、拙者、并、庄屋喜三郎、御役
所之被寄召被 仰付候趣、今度、東村氏
社遷宮ニ付、真光寺別之趣被申出候得共
真光寺ヲモ致吟味、於役所ニ、貞享弐年之
御舊記相改候所、真光寺別當之趣不相
見、然は、已後、別當と致事相成不申、依而、
右之趣、真光寺へ申渡候處、無子細、承
知被レ為（抹消）「致」致候、以後、其村於氏社ニ、少も真光寺
構無之候間、其旨承知可被致と
寺社御奉行佐藤権太夫様より被為仰
付候、
宝曆十辰十月朔日 廣川播磨

奉願上御事

7

一 私持分之社、朱沙賀大明神、先年は、餘
程之大社ニ而、御座候所、其以後、段々衰微
仕候而、但、今ハ社無御座、社跡ニ少木壺
本計リ御座候、神主之私、其分ニ捨置申候
義、残念ニ奉存候、且又、神慮へ對し不敬
之至ニ奉存候故、向壺尺之小社奉願候、并ニ
但、今ハ畑ニ相成申候へハ、濱邊ニテモ少々社地
ノ義奉願上候
右願之通被為 仰付被下候へは、難有仕合ニ
奉存候、已上、

安永四未四月 日 神主 廣川若狭正

寺社御奉行

松本多仲様

西山文太夫様

堀江六郎兵衛様

奉願上御事

一 私持分社、朱坂大明神鞘堂御座候二付、式間二式間半之鞘、此度仕度奉存候、祭禮之節當日計、少々財米等、置板、并、拝所二仕度、尤、藁茸二仕、是迄ハ數年来祭礼之節當日切ニ取立済来候、右切組御座候木道具、此度相用申候、右願之通被為 仰

8

付被下候ハ、村々氏子共一統、難有仕合奉

存候、已上、

寛政八辰六月

神主廣川若狭

佐藤権太夫様

奉願上御事

一 三島大明神、神殿、拜殿迄大破二付、屋根葺替、并二所々取繕普請仕度、奉

願上候、

右願之通被為 仰付被下候ハ、難有仕合

奉存候、已上

文化十二年亥七月廿日

廣川大隅

松田源治

奉願上御事

一 私持分之社、蛭子宮社内之氏子中心願御座候二付、高サ式尺八寸石唐獅子、一

對寄進仕度奉存候、此段奉願上候、右

願之通被為 仰付被下候へは難有仕合

奉存候、已上、

神主廣川大隅

文政八年乙酉八月 日

差出ス

竹本弥四郎様

9

奉願上御事

一 私弟、岩之進義、大濱村檜垣播磨方へ養子ニ差出度奉存候間、此段、奉

願上候、

右願之通被為 仰付被下候ハ、難有仕合

二奉存候、以上、

廣川織部

天保三壬辰七月 日

後見

別府セツ

町田勘解由左衛門様

奉願上候事

- 一 今度、私伴村蔵義、社形為致度奉
存候、右二付、改名、織部と仕度、右之段、奉願
上候

右願之通被為 仰付被下候へは難有仕合ニ

奉存候、已上

天保四巳正月 日

廣川大隅

窪田郡太夫様

10

奉届上御事

- 一 東村三島宮祭禮、八月廿二日之処、當廿三日ニ仕度
奉存候、此段、奉届上候、已上

天保八年酉九月 日

廣川織部

寺社御役所

奉願上御事

- 一 私義、今度、為續目官職、上京仕度奉存候
- 二 付、御添管奉願候、尤、名前ハ別紙ニテ
二名ノ内仕度奉存候

神主号奉願上候

右願ノ通被為 仰付被下候ハ、難有仕合ニ奉
存候、已上

天保九戌年四月 日

廣川織部

二俣蔵人様

右二付、神主号之儀ハ、御役所方御料

宮ヶ寄八幡宮之所難相分被 仰出候

二付、宮ヶ寄庄屋方之今治御役所へ

差出候文言、左之通

御料越智郡宮ヶ寄神主、越智郡東村

八幡宮

廣川織部

右ハ代々社職相勤、別当不及申、外掛

合之社人無御座（抹消）「候」、一人持之社ニ御座候、

11

天保九戌四月

庄屋 又兵衛 判

奉差上御事

一 東村鎮守宮、平日、私一己之勤式ニ御座候、尤、

祭禮之節、神殿奉幣壹本、祝詞幣左

繩切飾、私方ニ仕、一御膳、神酒、鏡餅、私方方

献上、一諸神札、私方方差出シ、氏子、并、諸人

方之初穂、神楽、久米散錢、并、献上物、年

中、私一己ニ受納仕候

一 祭礼朝、神殿奉幣壹本、御膳、神酒

鏡餅、真光寺方献上、勤相済次第帰寺仕

右寺方之献上計、夕方寺へ持帰り候

寺社御役所方御尋ニ付、御役所之差

出置き候

天保十四年 卯

神主

十月 日

廣川大和

御用有之候間、来ル十日、四時、役所へ罷出可申
候、以上

八月七日 寺社役所

東村 廣川大和太夫

右ニ付、十日四ツ時、御役處へ罷出候處

今般、其許義（抹消）「再認」再諭方被 仰付、式役中

帯刀御免被成候

天保十五辰八月十日

奉届上御事

12

一 今度、私義、心願御座候ニ付、宇和島和靈宮へ參

詣仕度奉存候間、此段、奉届上候、以上

天保十五辰十月 日

廣川大和

寺社御役所

奉届上御事

一 私儀、印判紛失仕候ニ付、仮ニ別紙之通ニ仕

度奉存候間、此段、奉届上候、已上

弘化三年午三月 日

廣川大和

寺社御役所

奉願上御事

一 拜志町蛭子宮大破ニ付、普請仕度段、町内之嘶合

仕候處、近頃、氏子一統、甚、衰微仕候杯、寄附

等は、夏来苦敷候に付、何卒、御憐愍之上、

来春蛭子宮庭前ニて、子供浄瑠璃御免

被為 仰付被下候へは、少々成共殘金ヲ元と
仕、追々普請造作仕度段、町内方申来リ候
間、奉願上候、右願之通被為 仰付被下候ハ、難有
仕合ニ奉存候、以上、

弘化三年午十一月 日 廣川大和

鳥居又右衛門様 十二月十七日ニ御聞濟ニ相成申候、

奉届上御事

13

一 私儀、印形紛失仕候ニ付、仮ニ相用居候處、此度

別紙之通相改度奉存候間、此段奉届上候、已上、

弘化四年二月 日 廣川大和

鳥居又右衛門様 御聞濟ニ相成申候、

奉伺上御事

一 去冬、拜志町蛭子宮庭前ニ於テ子供淨

瑠理御願申上候處、御聞届ニ被成下難

有仕合ニ奉存候、然ル上ハ、来ル三月三日方晴天、十日

之間、興業仕度奉存候、此段奉伺上候

一 内古家 但シ、間寸貳間ニ三間 小右衛門

一 茶古家 但シ、間寸壹間半ニ貳間 瀧 治

右奉伺上候通被為 仰付被下候へは、難有仕合奉

存候、以上、

弘化四年未二月 日 廣川大和

鳥居又右衛門様 御聞濟ニ相成申候、

奉伺上御事

一 拜志町子供淨瑠理興行、日限、明日切ニ御座候

處、日々、聞人相増候間、何卒、壹兩日之所、日延御

免被成下候様奉伺上候、右奉伺上候通被為

仰付被下候へは、難有仕合奉存候、已上、

弘化四年四月一日 廣川大和

鳥居又右衛門様 御聞濟ニ相成申候、

14

奉伺(抹消)「□」上御事

一 喜田村朱坂宮之心願御座候ニ付、来ル十六日、祭礼日、

子供花角力仕度段、氏子方申来候間、此段

奉伺上候、右奉伺上候通被為 仰付被下候へハ

難有仕合ニ奉存候、已上、

安政三年辰九月 日 神主廣川近江

鳥居又右衛門様

御聞濟二相成申候

以廻文申觸候、然は、御時合柄寺社一統え

献金之儀、從

公邊御沙汰之次第も有之候間、老人前

金五拾（抹消）「錢」疋ツ、急速、役所迄相

納可申候、已上

卯三月十六日

寺社役所

席觸

今般、御出生の御女子、御名、於滿（傍点）「ミツ」殿と

被為附候の間、御名同字、并、婦人同名

15

可致用捨事

右の通、被仰出候間、此段、承知

可申候、已上

四月六日

寺社役所

社中一統え

一 社木伐方の儀は、向後寺社所役、山役

所両役所へ被願可致事

一 郷夫賃錢之義は、修驗社人高割

の外、軒別割差除可申事

四月二日 寺社役所

席觸

一 殿様御義、被復以前壱岐守様と被成、御

改名候事

一 朝蔵様御義、去月十七日、御賀養子御

願濟候に付、以来可奉称 若殿様と事

四月八日

一 先達而、相觸候役家へ之差出の物

一切用捨可致様及回達候所、此度

左の通、被仰出候間、此段承知被致

候、已上

一 御礼差出物の外、役義に付、差出物

差留候事

四月八日

16

一 中古以来、某権現、或ハ、牛頭天皇の類、其外、佛話

ヲ以、神号ニ相稱候神社不少候、何レも、其神社

の由緒委細ニ書付、早々可申出候事

但、勅祭の神社

御宸翰

勅願等有之候向は、是（抹消）「迄」又、可伺出、其上二而御沙汰可有之候、其餘の社ハ、裁判鎮臺
領主支配類可申出候事

諸國大小の神社中、佛像ヲ以テ神體ト致シ、
又は、本地杯と唱へ、佛像ヲ神前ニ掛、或は

鰐口梵鏡佛具等差置候分ハ、早々取除

相改可申旨、過日被仰出候、然處、旧来社人僧

（抹消）「僧」侶不相善、氷炭ノ如く候ニ付、今日ニ至リ社人

共、俄ニ威権ヲ得、陽ハ御趣意と称シ、実ハ

私憤ヲ霽シ候様の所業出来候而は、御

政道の妨ヲ生シ候、而已ナラス、紛擾ヲ引起可

申ハ必然ニ候、左様相成候而ハ、實ニ不相濟

儀ニ付、厚ク令願慮、緩急宜ヲ考へ、穩ニ

可取扱は、勿論、僧侶共ニ至リ候而モ、生業

不失益、國家の御用相立候の様、精々可心懸

候、且、神社中の有之佛像、佛具等取除候分

タリト雖トモ、一二取計向伺出御差圖可受候、

若シ、已来、心得違致シ粗暴の振舞等

於有之ハ、急度、曲事ニ可仰付候事、

17

但

勅祭の神祭

御宸翰勅額等有之候向は、伺出候上御

沙汰可有之、其餘の社ハ、裁判所、鎮

臺、領主、地頭等へ委細可申出候事、

慶應四年

辰四月

右の通從 天朝被 仰出候間、可被得其意候、已上、

閏四月廿六・七日寺社へ談

寺院へ被仰出候写

今般、諸國大小の神社ニ於テ、神佛混淆の

義は、御廃止ニ相成候に付、別当社僧の

輩は、還俗之神主、社人等の稱号ニ相轉、神

道ヲ以テ可致勤仕候、若、無據差支有之、且ハ、

佛教信仰ニ而、還俗之義不得心之輩は、神勤相止の退可申候之事、

但、還俗之上ハ、僧侶僧官返上勿論ニ候、官位

之儀ハ、追而御沙汰可有之候間、当今之處、衣

服ハ、風折鳥帽子、淨衣白差貫着用、勤仕

可致候事

右の通從 天朝被仰出候間、可被得其意候、已上

以回文申觸候、然は、別紙の通、被仰出候

間、此段、承知可申候、已上

五月七日

18

一 神職の儀ハ、家内至迄、以後、神葬祭相改

可申事

一 今度、別当社僧還俗の上ハ、神職ニ立交候節

も、神勤順席等、先、是迄の通り、相心得可申事、

以回文申觸候、然は、別紙の通、被仰出候間、此

段、承知可有之候、已上、

十一月廿八日

社寺役所

今般、厚

思召を以、金札通用被仰出候處、諸藩の内、間

々未通用不致向も、有之趣相聞、以の外の事ニ候、

皇国一圓通用の儀ニ付、於藩ニも、追々相当

の拜借仕分アリ、不通用の向有之候而は、

朝命を拒候筋ニ相当リ候ニ付、向後、右様不心得

の者、於有之は、屹度

御沙汰の次第モ可有之候条、兼而、被 仰出候通、

正金同様令通用候様、僻邑遐陬ニ至迄、速可

相達旨被 仰出候事、

十月

今般、厚 思召を以、世上融通金札通用

被 仰出候處、間々不心得ニ而、彼是と申

難シ通用を妨げ奸曲の取行せしめ候はも

有之哉ニ相聞、以の外の事ニ付、府縣ニ於

テ嚴重、遂詮議、左様不心得の者、於有之、早

速 召捕可遂吟味事、

十月

19

右の通、從 行政官被 仰出候間、心得違無之

様、急度、相心得可申候、

十一月十七日

席觸

天朝の御趣意ニ基キ議員を被設、当分、
以克明館議事所と、被定候間、御為筋見込
有之輩ハ、士民農商無怠憚可申出者也、

明治元年辰十二月十七日 議政所

席觸

御敷居御流

一 盲人 老人宛

御書院

一 御相伴御盃 松源院

御敷居内

一 御流式人宛 光林寺始メ

寺院御敷居内之分

御敷居内

一 御流式人宛 修驗

準年行事

一 御流式人宛 松本神主

藏敷八幡神主

式内大社神主

大江甲斐守

一 大流式人宛惣社人

20

右の外、御敷居外寺院ハ、於御敷臺ニ

御帳へ付可申事

地嶋宇摩郡社中一縁、銘々奉仕の

社書付ニいたし、急速差出之候様御沙汰

有之候間、此段、承知の上、早々書出の可

被申候、以上、

明治（抹消）「元」二年正月四日 社寺役所

地嶋宇摩郡

示諭方中

村々諸社小社ニ至迄、為見分、左の役人、明後

九日朝六ツ時ヨリ大濱村初メトシ、地方不殘

廻社候間、此度承知可有之候、

但シ、休泊の儀ハ、出張先より及都合候間、是又、承知可有之候、
〔抹消〕「明治元年」

明治元年十二月七日

神祇館

出張役人（割注）「古國分、國分東村、喜田村／見分八日也」

堀江六郎兵衛

池内武右衛門

下調老人（割注）「左野惣治／宇野万助」

21

小使 壺人

外ニ家来式人

以回文申觸候、然ハ、去春、王政御一新

ニ付而ハ、古来忠勤を天朝ニ尽し候楠

公、豊公等の祀典を被為挙行、神殿御造

营被 仰出候ニ付、於

御家も

天朝の御趣意を御遵奉被成、國分山

ニ有之候南朝の忠（抹消）「信」臣、脇屋義助、神

殿御造营相成候間、有志の輩、米錢不抱

多少神納可致事

一社寺共、寄附の田畑、并、自分所持の田畑

畝高、夫々取分ケ書付、来ル八日迄差出シ可申事、

右の通、被 仰出候間、此段、承知可有之候、以上

明治（抹消）「元」二年二月二日 社寺役所

以回文申觸候、然ハ、向後、一村一社と

被仰出候、相定候地所の儀ハ、今度回村

見分の上、取究写し神主奉遷いたし

跡地ハ御用引揚ニ相成候

右の通、被 仰出候間、此段、承知可有之候、已上

明治（抹消）「元」二年二月六日 社寺役所

22

以回文申觸候、然ハ、日月祭、地鎮祭、家鎮

祭等、緒事社家の職務ニ候間、向後、寺院ニテ

一切不可致候事、

右の通、被 仰出候間、此段、承知可有之候

明治式年二月十八日

社寺役所

以回文申觸候、然ハ、菊（抹消）「相」桐之紋并役寺

杯と、唱候義、已来不相成候事

右の通、被 仰出候間、此段承知可致候、已上、

四月五日

社寺役所

左の社へ寄方相定り候間、村方申合

都合次第、早々奉遷可致候事、

神宮

上徳村 高森社 徳久村 同社

喜田村 椿森社 東村 濱ノ社

国分村 春日社 古国分村 天満社

23

本年二月ノ觸書ニヨリ、左ノ日割ノ通り、毎村

合ヲトナス、

八月朔日 辻堂村 同二日 上神宮村

同三日 新谷村

喜田村 徳久村

古谷村

東村 高市村

山口村

国分村 町谷村

古国分村 松木村

同四日 朝倉 同五日 朝倉

北村 上村

南村

以回文申觸候、然ハ、祭礼神輿聞届ケ

有之向ハ御旅所迄御幸可致様、

此段、承知可有之候、已上、

以回文申觸候、然ハ、此度一社地え寄方ニ相成候

神社の内、社家奉仕違の社は、別段、其外、総

而、相殿合祭（抹消）「合」可致、子細有之相殿ニ難相成

神社は、書付ヲ以テ可申出候、

右の通、改而、觸達候間、承知可有之候

八月十一日 社寺役處

以回文申觸候、然ハ毎々相達候通、当今

の時節、神祇道、格別御執立も可有

之ハ、申込も無之義、然るに、神職ハ徒らには、

其名のミ有之、中ニハ、身分不似合の所業

も有之候哉趣、畢竟、利欲ヲ先とし神

24

明ニ奉仕の誠心不厚故の儀、以の外の事候、

已来、屹度、相心得、専ら其職道ヲ研究の
他の誹議を不招、其職掌相立候様勉
勵可致候、萬一、心得違の向も於有之テハ、嚴
重取計可申付者也、

一 朝廷之御主意ニ基キ、向後、左の通り
相定メ置候間、其心得にて居措職掌
ヲ守リ、一和の上、異論ケ間敷義、決而、
不相成候事、

第壹神主、第二社司

右の通、夫々承知可有之候、

十一月七日

以回文申觸候、然は、社寺にて、是迄菊御紋用
来候者不少候處、今度、御紋御改正相成候、社ハ、
伊勢、八幡、上下加茂等、寺盤、泉湧寺、般舟院等の
外ハ、一切被差止候旨被仰出候事、

但シ、格別由緒有之社寺ハ、由緒書シ以可

伺出候事、

一 天下一般、錢相場、金壹兩ニ付拾貫文
御定ニ相成候事、右の通、從

天朝被 仰出候間、此段承知可致候、

一 金三拾貳兩、神祇道為調上京入用

内

25

式拾兩 役所方取替、来暮方七年賦

残而、拾貳兩 惣社家六十八人割

壹人前貳朱と三拾八匁六分ヅツ

右金錢共、当月中ニ役所へ差出可申候、

十一月八日 願到来

今日、左の通、被 仰出候間、此段相達候

神祇館主事 久松監物

神祇館判事、兼幹事 堀江六郎兵衛

神祇館副判事 池内武右衛門

明治二年十一月十一日 神祇館

十一月十九日、神祇館へ出頭仕候處、左ノ通り

被 仰出候、

崇神祇重祭祀ハ 皇朝ノ大典ハ萬世不易ノ

至道ナリ、然ルニ、世故變遷人心巧偽シテ、忠實

正直ノ教、殆ント敗壞絶滅ニ至ラントス、豈可歎ノ極
ニ非ラスヤ、方今、王政一新、萬機委ク古典ニ復セラレ祭
政一途ノ 御主意ヲ以テ治國ノ大基礎被為立ニ付
於當藩モ

朝廷

26

明治二年十一月十一日

神祇館

十一月十九日、神祇館へ出頭仕候處、左ノ通り

被 仰出候、

崇神祇重祭祀ハ 皇朝ノ大典ハ萬世不易ノ

至道ナリ、然ルニ、世故變遷人心巧偽シテ、忠實

正直ノ教、殆ント敗壞絶滅ニ至ラントス、豈可歎ノ極

ニアラスヤ、方今、王政一新、萬機委ク古典ニ復セラレ

祭政一途ノ 御主意ヲ以テ治國ノ大基礎被為立

候ニ付、於當藩モ

朝廷ノ御（抹消）「主」旨趣ヲ遵奉シ、祭祀奉奠ノ道別シテ

27

心ヲ尽シ、振起作興、異教ヲ防塞シ、民志

ヲ一定シ、皇國ノ實體相行候思召候、就テハ、

諸神主職ノ者ハ、殊更、其意ヲ承奉シ神祇

尊崇ノ要深ク心ヲ用可申候、然ル処、兎角從來

ノ陋習ヲ不免、不学無術簾耻ヲ失ヒ、利欲ニ趨

リ祭享祝詞ノ要何事タルヲ知ラス、

神明奉仕ノ道、徒ラニ死物トナリ、中ニハ少シク学

識有之輩モ 皇國ノ大道ヲ知ラス本地垂跡ノ

説ニ迷ヒ、兩部合一ノ論ヲ信シ、或ハ、荒唐不經

索隠行怪等ノ所業不少、神明ノ罰豈免

サラシヤ、自今以後、舊弊ヲ一洗シ誠敬公直

ノ道ヲ守リ、古典舊章ヲ研究シ、神聖ノ大道

ヲシテ地ニ墜（ルビ）「ブト」サラシムル様、切實肝要可相心掛事、

申渡書

從來、神主社司ノ兩職混同シ紊乱シテ勤

格不正、時々争論ヲ起シ間、卑劣ニ渡神明ヲ

穢スニ至ルアリ、其罪雖、難許、今般、館政維

新ノ際、左寛宥ヲ以テ之ヲ處シ、既往ヲ不見（又へんに見）、

更ニ規律ヲ確定シ警戒ヲ後來ニ垂ル、自今、

律令ヲ承順シ職分ヲ固守シ神事ヲ可致
勉励、万一違犯ノ輩於有之ハ、可處嚴科
者也、

神主

掌^ル專^ラ主^ハ、祭式一常ニ祈^リ藩^榮、總^中判^社務^ヲ

28

社司

掌^ル承^ニ受^シ神主ノ令^ヲ補^ニ佐^シ祭式一參^中判^社務^ニ

神納分賦

拾分ノ八 神主 拾分ノニ 社司

十一月

神祇館

村々諸社小社ニ至迄、為見分左ノ役人、
明後九日朝六ツ時方大濱村初トシ、地方
不残、回村社候間、此段、承知可有之候、
但シ、休泊ノ儀は出張先より及都

合候間、是又、承知可有之候、

堀江六郎兵衛 下調壺人

池田武右衛門 小使壺人

外式人家来

布告

藩学講釈聴聞出席可致、尤、三八

朝定日の事、

但、遠方、若神事差支の向は、不

及断事、

十二月九日

神祇館

29

一 籍内之神社悉奉復全旧地、祭日旧来
之通、可得^レ心事

二月

神祇館

主事

一 神社奉復ニ付ハ、兼テ申出候通、猶又、祭
式ヲ正シ厚ク畏敬シテ奉慰 神慮候様

丹誠ヲ抽可致勤行事、

一 奉遷之儀ハ、第一念入土地ヲ清、夫々用
意之後、伺出可受下知事、

一 籍外ノ神社悉ク可致合社、尤、銘々所持
ノ山林等へ勸請シ祭ル所ノ神社ハ、從

前之通可為勝手事、

一 祭日、舊來ニ復スルニ就テハ、從來敬薄ノ習

俗ニ染、人民祭事ノ要、忘レ自己ノ

嗜（抹消）「候」ム所ニ任セ恣ニ飲食ヲ設ケ、親族互ニ往

來シテ酒宴ヲ盛ニシ、動モスレハ産ヲ破リ、遂ニ神

事ヲ疎ニスルニ至ル有リ、若シ、自今右様ノ族、於有

之ハ、即神罰ノ至ル所、館ニ於テモ處置振

リモ有之ニ付、屹度、氏子共エ、祭祀ノ要ヲ弁サセ、質

素朴實ニ帰シ候様親シク可致説諭事、

明治三年二月十三日

神祇館

布告

30

神社奉復ノ儀、來ル、三日より各所可致

奉遷、尤、檢使不差出候間、村々庄屋始メ

氏子共示合、成丈、敬礼ヲ尽シ、粗漏無之様可致事、

但シ、奉遷相濟上ハ、追而、可致見分事、

午三月朔日

神祇館

布告

近來、祭礼之節、氏子毎戸神輿ヲ引

付、作法ヲモ不顧銘々御酒ヲ献シ、剩、往

來ニ於テ至尊ノ神輿ヲ奉為狂、其様

恐多クモ神輿ヲ翫フニ似テ、甚不敬ノ至

リ、如何トモ不可言ト雖モ、全澆季ノ習俗、マシテ

顯然罪ノ歸スル處無之、乃チ館政維新

之際、既往ヲ不（抹消）「問」問後來ヲ誡メ、一途ニ政

教ヲ布テ反始ノ要領ヲ示シ置ク所也、断然

從來ノ弊ヲ正シ、厚ク尊敬シテ、神輿ヲ先

御旅所へ奉シ、暫ラクシテ村内往來ノ道

筋ヲ行幸マシマス様致シ、其刻、氏子各門前

ニ出テ拝シ、畢テ其夜還幸、御璽ヲ神殿

え奉遷シ、決テ翌朝へ遅延不可致事、

附

本文ノ旨、氏子共へ嚴シク可申聞置

且又、駕輿丁成丈大切ニ扱ヒ候様可

31

申付事

明治三年庚

午三月

神祇館

館政維新ノ折柄、神名籍ヲ改正シ
且、社地ノ境界ヲ改メ、近来人民増加シテ
洽ク民戸ニ指與スルノ地無之候ニ付、各所
ニ監ミ神領ヲ請フ旧来ノ分界ヲ滅シ候、
事、但シ、社木ハ館工伐取候事、

明治三年午四月

別紙布令ノ次第ハ、時勢ノ成行不得止之
施行ニ候間、孰モ確認ノ上、第一神慮
ヲ伺滅地ヲ請候様一統ヘ示諭可有之事、
右ニ付、四月廿九日諸社地為改、朝六ツ半時出張候、
間、此段、承知可有之候、
南方ハ、一、鈍川方始藏敷村迄、
北方ハ、一、今治方始メ龍岡木地迄、
右式先出張候事、

午四月廿七日

神祇館

下調役 高野万助

民政局

重松

堀江

32

一 五匁以下古札、来ル從十五日、十九日迄五日ノ間
引換相成候、此段、為心得相達候事、

五月八日

藩政館

右ノ通、承知可有之候、

五月十二日

神祇館

布告

九月廿二日ハ 天子様之御誕生日ニ付、当日ハ
罪人ノ拷問迄、用捨いたし、ひとへによるこひを
共ニ被遊度思召候間、一統、毎年此日を
天長節となへ、祭日同様賑々敷奉祝
遍きもの也、

藩政館

右の通、承知可有之候、

八月二日

布告

諸社祭日勤式、当分別紙ノ通可心得事

但、社内廣狭ニ依、取捨可然可致勤行事、

八月八日

神祇館

祭礼式

33

朝 先清祓式

昼 先塩水

夕 先献供

次献供

次散米

次奉幣

次大玉串

次玉串

次祝詞

次祝詞

行事

次神楽

次御神楽

次献供

次小拝祝詞

次天拝祝辞

次祝詞

次撤供

次撤供

次御神楽

退下

次寿辞

次直會

九月廿二日被

聖上御誕辰相当候付、毎年此辰ヲ以、群

臣ニ酺宴ヲ賜ヒ

天長節御執行相成、天下ノ刑戮被

差停候、偏ニ、最庶ト御慶福ヲ、共ニ被

遊候思召ニ候間、於庶民も一同

御嘉節ヲ奉祝候様、被仰出候事、

九月二五日

布告

兼而、御布告相成候通り、来ル廿二日ハ

天長節ニ付、上下一同歓楽ヲ共ニ、之、被奉祝

御嘉節度被 思召候ニ付、於調練場、角

力、於市屋敷、藝為致候間、男女共勝手

ニ見物可致候事、

但シ、右場所え酒肴相携候儀、可為勝手

尤、酔中迎も粗暴ノ振舞於有之者、

御沙汰の科も可有之候事、

34

布告

川の常水ほし切、殺生致候儀、從來嚴禁

の處、近来猥ニ相成心得違、常水ほし切

候而已ナラス、石炭等ヲ以テ石垣ヲ相損シ候趣以

の外の事ニ候、已来、常水の外多りとも

右様の所業、於有之は、急度、嚴重被（抹消）「□」及

御沙汰候間、此旨、兼而、相心得可申事、

九月拾二日

神祇館

左の通、被 仰出候間、承知可有之候

社寺大屬 河野弥五郎

社寺少屬 池内武右衛門

閏十月廿五日

社寺局

今般、藩政御変革ニ付、社寺郡政同局ニ被改候、

事、但シ、局造営ニ付、元神祇館代ニテ諸事

取扱可申、尤、是迄、定日の翌日を以、會日与相〔抹消〕〔定〕

改、十二月廿七日の翌日ハ休会之事、

十一月三日

社寺局

郡中布告

毎秋、諸社祭ノ節、社人共六神祇杯唱へ

手拝致執行来候得共、神典ニハ無之儀ニ而、不敬

ノ事ニ付、維新ノ際令禁戒、唯一ノ正式ニ復

尚、氏子安全五穀成就等ノ祈禱励精為勤

行候所、辨モ無ク初穂米献上ヲ止候村有之

趣、畢竟、神明尊敬ノ意薄よりの儀ニ而、

本意ニ有之間敷、殊ニ、復古祭政ノ治浴ス

☪

ルノ折柄、別而、恩義ヲ厚ク心得可致献

米事、

午十二月

申渡

別紙ノ意ヲ以、郡中へ令布告候間、為心得達候、

就而ハ、兼而告諭ノ通、氏子共ヲシテ弁別〔抹消〕〔七〕ヲ得セ

シメ候様、尚又、可心懸ハ、從來弊習ニ馴候愚

民多事ニ候得ハ、身上ノ行状ヲ以テ

導候事肝要ニ候、且又、平常村内へ懇情

ヲ加へ姑息ノ權ヲ以抗肩ノ心持毛頭無之、隨

分、謙讓ノ礼ヲ尽接待可致事

明治庚午

十二月

社寺局

布告

諸国社寺、由緒有無ニ不抱、朱印地除地等従前

ノ通被下置候處、各藩、版籍奉還ノ末、社寺ノミ土地

人民私有ノ姿ニ相成、不相当ノ事ニ付、今度社寺領

現在ノ境内ヲ除クノ外、一般上知被仰付追而、相当禄制被相定、更ニ廩米ヲ以テ可下賜事

但、當午年收納ハ従前ノ通被下候事、

一 領地ノ外ニ、藩政府、并、舊領主等ヨリ米

金寄付ノ分、依舊貫、尚、午年迄被下候向

モ有之候処、来末年ヨリ被止候事、

但、家禄ノ内ヲ以テ寄附致候儀ハ別段

ノ事、

36

一 上知ノ田畑百姓地レ持ニ無之、社寺ニテ直作、或ハ、小作ニ

預ケ有之分、年貢諸役百姓、并、相勤ルニ於テハ、従前

ノ通、社寺ニテ取持致モ不苦候事、但、地所ニ關

係ノ事務ハ、村役人差図可致事、

右ノ通、被仰出候條、府藩縣ニ於テ管内ノ社寺へ

可相達候事、

庚午十二月

大(太力) 政官

今般、社寺領一般上知ノ儀、別紙ノ通被仰出候付

是迄支配致候府藩縣へ土地更ニ管轄被

仰付候事 但、高帳ハ追テ可相渡事、

一 禄制御改革ニ付テハ、元禄ノ社寺ニテ是迄

召仕候譜代ノ家来共三代以上、元給禄高、二

代以下、勤年数式十ヶ年以上、五ヶ年以上、譜代

新規抱等ノ差別ヲナシ管轄府藩縣ニ於テ人名取調可差出事、

但シ、一季抱ノ分ハ、不及差出事、

右ノ通、相達候事、

庚午十二月

大政官

別紙ノ通、従 天朝被 仰付候間、此段相達

候

未二月十四日

社事局

布告

鈴木勇記、昨七日 小参事奉職、社寺勸

農課専務ニ相成候ニ付、相達候事、

五月八日

社寺局

37

依

天津一同社職免候也、

明治辛未十一月

社寺課

役人大屬河野通興殿申渡候、
免職二付、暫時活計為手當米拾貳俵下賜候也、

大濱村

日吉村

鳥生村

桧垣真名男

越智秀雄

別府茂雄

一同、従先代、拜受ノ免状、返上可致候事、

辛未十一月十九日

佐伯 巖 大塚真幸 本宮芳雄 高橋械雄

祠官申付候事、

辛未十一月

縣廳

佐伯平馬 竹内葦實 高橋志津雄

越智 肇 別府瑞穂 佐伯有様

矢野眞彦 芥川五百枝 高田 束

阿部三輪磨 廣川倭文彦 佐伯 茂

田窪茂雄 西原一躬 村上真左美

田窪賢男 矢野求記 阿部岩雄

羽藤欽吾 矢野 栄 矢野加茂若

高橋三行

88

祠掌申付候事、

辛未十一月

縣廳

当時 大屬 鈴木橋太郎 下調 池内与平

小屬 渡邊 章

社寺小参事

鈴木勇記

下調

大屬 河野通興

青野惣治

小屬 池内平八

丹下紋太

先代ヨリノ免状、来ル廿九日迄ニ相納候事
候、

十一月廿三日

社寺課

左ノ面々、先代ヨリノ免状相納ム

佐伯 茂 越智 肇 西原一躬

高橋甫柳 阿部三輪磨 竹内葦實

阿部岩雄 芥川五百枝 高岡 束

別府瑞穂 廣川倭文彦 村上真佐美

田窪茂雄 田窪賢雄

東村、廣川家返上免状寫シ

39

伊豫国越智郡拜志東村、三島大明神鎮

守、蛭児朱沙賀大明神、宮ヶ寄八幡宮、三島

大明神六社之祠官、廣川播磨、藤原

包吉着風折鳥帽子、狩衣、任先例、可專神

役者神道裁許之状如件、

寛延三年十月朔日

神祇管領長上正三位、大藏卿神權大祇副卜部朝臣兼雄 朱印

伊豫国越智郡拜志東村、三島大明神鎮守、蛭児朱

沙賀大明神、宮ヶ寄村八幡宮高市村三島大明神

六社祠官廣川若狭藤原包久着風折鳥帽子、狩衣、任先例可專神役者

神道裁許之状如件、

安永三年六月廿四日

神祇管領長上正二位卜部朝臣兼雄 朱印

伊豫国越智郡拜志東村、三島大明神鎮守、蛭児

朱沙賀大明神、宮ヶ寄村八幡宮、高市村三島大

明神六社祠官、廣川大隅（抹消）「守」正藤原包正着

風折鳥帽子狩衣任先例專守社職格式可

抽太平精祈者

神道裁許状如件、

文化九年六月十九日

神祇管領長上從二位卜部朝臣良連 朱印

伊豫国越智郡拜志東村三島大明神鎮守蛭児

+

朱沙賀大明神、宮ヶ寄村八幡宮、高市村三島

大明神六社神主、廣川大和正、藤原包信着

風折鳥帽子、狩衣、任先例、專守社職格式

可抽太平精祈者

神道裁許状如件、

天保九年後四月十九日

神祇管領上長從二位卜部朝臣良長 朱印

伊豫国越智郡拜志東村、三島大明神鎮守、蛭児

朱沙賀大明神、宮ヶ寄村八幡宮高市村三島

大明神六社神主、廣川日向、正藤原包暲着

風折鳥帽子、狩衣、任先例、專守社職格式

可抽太平精祈者

神道裁許状如件、

安政四年三月十五日

神祇管領長上正三位下朝臣良熙 朱印